

中央採血室における医療関連感染予防のための 職員の行動と課題

長崎由紀子^{1)・2)}， 矢野久子²⁾， 堀田法子²⁾， 脇本寛子²⁾， 福留元美¹⁾，
山本洋行²⁾， 前田ひとみ³⁾， 脇本幸夫¹⁾， 岩田広子¹⁾， 鈴木幹三⁴⁾

- 1) 名古屋市立大学病院 2) 名古屋市立大学看護学部 3) 熊本大学医学部
4) 名古屋市緑保健所

目的

中央採血室において職員が感染予防のために実践すべき行動の現状と課題を明らかにすること。

研究期間

2009年9月

～2011年9月



対象・方法

1. 対象

A病院中央採血室で業務を行う職員

2. 方法

①9時～11時に対象の業務を直接観察

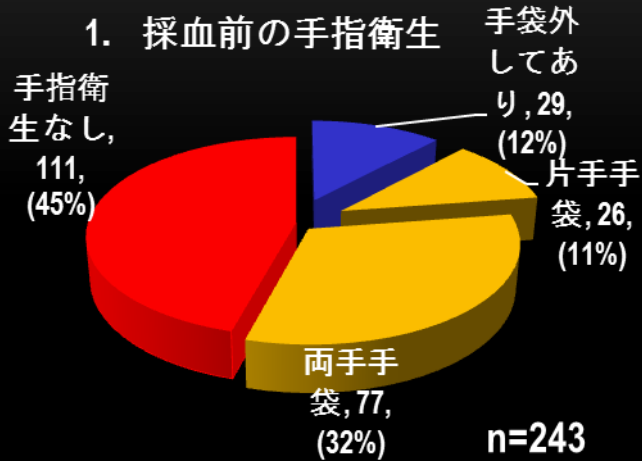
②採血時の職員の行動とその頻度
(13項目)に関する質問紙調査

⇒SPSS ver.16で解析

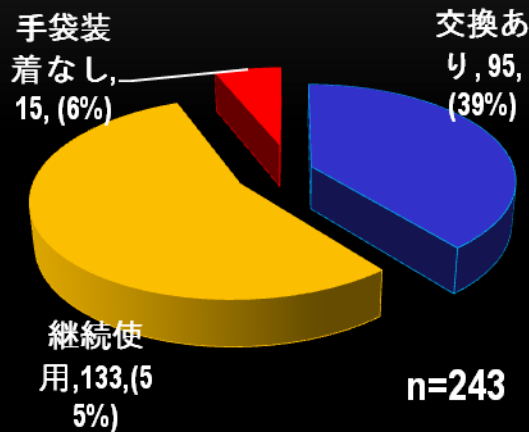
結果 1

①採血業務場面の直接観察

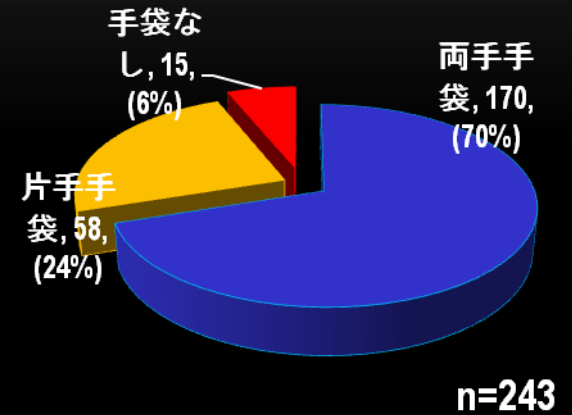
1. 採血前の手指衛生



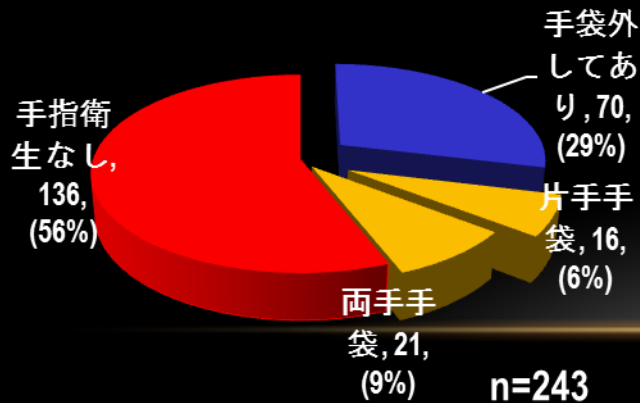
2. 採血前の手袋交換



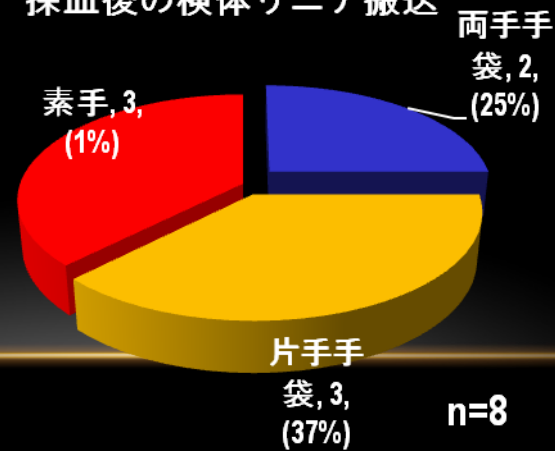
3. 採血時の手袋装着の状況



4. 採血後の手指衛生



5. 採血後の検体リニア搬送



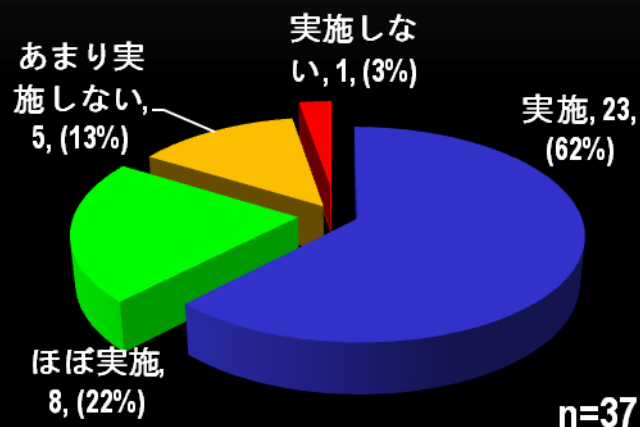
結果 2

②採血時の職員の行動とその頻度に関する 質問紙調査

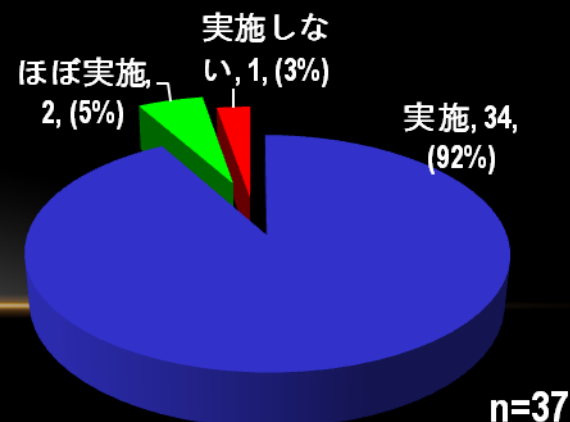
質問項目

1. 勤務前の手指衛生
2. 患者が咳やくしゃみをしている時の自分のマスク
3. 自分が咳やくしゃみが出る時の自分のマスク
4. 咳やくしゃみのある患者にマスクを渡す
5. 咳やくしゃみのある患者への手指消毒指導
6. 感染症状の問診に注意し、他職種に伝える
- 7. 血液や汚物に触れる場合の手袋装着**
- 8. 血液や汚物に触れた後の手指衛生**
9. 感染症状のある患者を、他患者と距離を保つ
10. 患者の感染症情報に対応前にチェックする
11. 感染制御室のホームページを見る
12. 感染対策マニュアルを見る
13. 感染症の対応で困った時、感染対策委員などに相談する

血液や汚物に触れる場合の手袋装着



血液や汚物に触れた後の手指衛生



考察

1. 採血業務が連続し、**患者ごとに手袋の交換がされていない**場面があると考えられた。
2. 手袋の交換がされない場合の手指衛生が、**手袋の上から実施**されていた。
3. 採血時の手袋装着は、**血管の確認を素手で**行っている場面で**片手あるいは素手**で実施されていた。
4. 検体をリニア搬送する際のタッチパネルは手袋または素手で操作されており、**交差感染の危険性が高い**と考えられた。
5. 血液や汚物に触れる場合と触れた後に**手指衛生を実施しない**と回答した職員がいたことは、**職業感染の危険性がある**と考えられた。

結論

1. 患者ごとの手袋交換と手指衛生が実施できる採血手順の検討が必要である。
2. 血液や汚物を扱う際の標準予防策遵守について強化した再教育が必要である。